研修名　保育内容研修１３（幼児教育）
平成２８年度２月１２日（金）１３：３０～１６：００
講　演　「子ども中心の『共有型』保育
～どの子も伸びる援助・ことばかけ～」
講　師　内田　伸子　氏

１　講演要旨

１）子ども中心の「共有型」保育

① 読み書きの模写能力は５歳になると家庭の収入による差はなくなるが，語彙能力においては収入の差が顕在化する。

② 学習系の習い事と芸術・運動系の習い事の語彙得点の差はほぼないが，習い事をしているのかしていないかの差が語彙得点として現れている。

③ 保育の場においても一斉保育を多く行っている園の子どもよりも子ども中心で自由遊びの時間が長い保育を行っている園の子どもの語彙得点が高く，また運動能力においても同じことが言える。

④ 家庭においても子どもにたびたび話しかけたり一緒に楽しい時間を過ごそうと考えながらしつけをしている『共有型しつけ』を受けている子どもと，決まりや考えをやかましく言うような『強制型しつけ』を受けている子どもでは共有型しつけを受けている子どもの語彙得点が高い。

⑤ 強制型は子どもに考える余地を与えず，褒める等の精神的サポートが低い。よって子どもは主体的に探索せず，他律的行動をしがちであるため語彙力が上がらない。

⑥ 一方で共有型は子どもに考える余地を与え，子どもに合わせて柔軟に調整するため子どもが主体的に考えて行動し語彙力が高くなる。

⑦ これらの幼児期におけるしつけスタイルと子ども中心の保育は小学校での国語学力の差に影響する。つまり幼児期に保育者や親が子どもの主体性を大事にした関わり方「共有型保育」「共有型しつけ」をしているかこそが大切である。

⑧ 幼児にとっての「遊び」とは「自発的な活動」であり，頭が活き活きと働いている状態のことであり，遊びを通して子どもは楽習する。また，子どもの自発性が発揮されるのは，保育者の権威が最小限に抑えられたときである。保育者は適切で適時な援助をしなければいけない。

２）どの子も伸びる援助　ワークショップ

３つの事例についてあなたならどのような援助をするか。

① ２歳児，家庭の宗教上の理由から給食ではなく持参のお弁当を食べている。ある日，食べている物が皆と違うことに気づきかんしゃくを起こす。
→他の子と同じお皿にお弁当の中身を移し変える。

② ４歳児，天井からランプシェードに見立てたごみ袋を吊るした。子どもがそれを見て「おばけだー！」と積み木に乗ってダンボール製の刀を振り回して楽しんでいる。
→０～３歳ぐらいまでは危険なことを丁寧に教えなければいけないが，４歳児であれば危険であることは子どもたちが経験の中から学んでいくため，大きな怪我にならないようであれば挑戦する思いを大切にして見守る。

③ ５歳児，池の中で泳いでいる鯉を数えたい。鯉が動いて数えられないため友達を呼び３箇所に分かれてそれぞれの担当の場所にいる鯉を数えたが，３人が数えた数字を足すことができず困っている。
→しばらくどのように数えるのかを見守り，１個石を渡して「石なら動かないんじゃないの？」とだけ言い見守る.

２　感想

共有型保育という言葉を始めて聞きましたが，子ども中心の共有型保育とは何か，なぜ共有型保育が子どもの成長に繋がるのかをこの度の研修で学ぶことができました．講義では実際に内田先生が行われた研究結果のデータをもとにお話してくださったので「何か」だけではなく「なぜか」ということも理解しやすく感じました．講義を聴く中で自分が行っている日々の保育ではどうだろうかと照らし合わせて考えていましたが，見守ることをせずに必要以上に言葉掛けをしてしまっているなと感じることが多く，これからは自らの課題として心に留めながら保育をしていきたいと思います.

また，ワークショップでは色々な先生方の援助の仕方や思いを聞いて自分とは異なる視点からの援助の方法を知り学ぶことができたことも今回の研修での大きな収穫であると感じました.

（記録　京田辺市立草内保育所　山根奈々穂）